ニウアフォオウ島再定住25年記念

P. Q.

ニウアフォオウ島（Niuafo ou）は南太平洋の西経175°南緯15°にある火山島である．それは丁度フィジー　サモア　トンガの作る三角形の内側にあって　政治的にはトンガ属領に属している．時にはグットホープ島とか　ブリキかん島とかと呼ばれた．ブリキかん島(Tin Can Island）と言うのは郵趣家によく知られた名前であり　それは到着した郵便物がビスケットかんに入れられ　船から泳ぎ手によって島へ運ばれたことによる．しかし　1931年からは丸木舟によって運ばれるようになった．島はココナツを産し　1,200人の住民がおり　太平洋最大の産地だった．1946年の噴火により　島は経済的に放棄され　28人が留まったにすぎない．再定住が行われたのは1958年で　その25年を記念して1983年9月に4枚1組の切手が発行された．

ニウアフォオウ島は直径5マイル　ほぼ円形で玄武岩からなる盾状火山である．島の内部はカルデラ湖が占めており　その直径が約3マイルであるから　島はリング状を呈することになる．湖の海抜高度は75フィート　深さは275フィート　水質はブラキッシュで　南側に温泉と硫化水素の噴出している所があり　恐らく1814年噴火の場所であろうと言われている．カルデラ縁の高度は海抜400-800フィートで約5°の傾斜であるが　海底では4°から7°の傾斜で続いているらしいが　詳細は不明である．地質断面から推定されたカルデラ形成前の山頂は　海抜3,000フィートを越えるものと推定されている．島の中心街は北東部のアンガハであったが　1946年噴火によって破壊された．

ニウアフォオウ火山は19世紀初めからしばしば噴火してきた．それは大きく2つに分けられる．山腹で溶岩が割れ目から　静かに流出する場合と　噴火の場所がカルデラ内となると水と接して　激しい爆発的活動を示す場合である．19世紀に14　40　53　67　86年と活動したが　その内14年と86年がカルデラ内の活動だった．20世紀に入ってから　12　29　35　43　46年と活動したがすべて山腹噴火である．46年以前の山腹噴火は全て南-西腹で行われていたが　1946年で始めて北東部に移り　アンガハの市街を直撃した．

1946年9月9日数回の地鳴りが午後7時にあった．8時12分に地震があり　1分ばかりで終った．無線技術者のS．マレカムの報告によると　コプラ検査員が8時15分に異常が起っていることを彼に告げたので戸外に出てみると　アンガハ市街の西端近くで炎と煙が見えた．彼は東の方へ逃げたが　5分も経たない中に北東方向に開いた割れ目から大きな火が起り噴火は海岸に達してしまった．割れ目はアンガハの場所を直撃したのだ．マルカムは「1つの火口は我々の台所のあった所のすぐ後で　1つは事務室と居間から20ヤードばかりだった．アンガハの各所から小さな火口が出来たが溶岩は出てなかった」と書いている．11時に灰混りの雨が降った．アンガハの町は第1夜でほとんど破壊された．3つの噴石丘が町に出来　他に9つが海岸に出来　町はパホイホイ溶岩によって埋められてしまった．アンガハで最も大きい噴石丘は10日の夜を通じて強く活動し　弱い活動は17日まで残った．強い地震は17日まで感じられた．

無線局が破壊されたのでアンガハ壊滅のニュースは16日に飛行機が町の上を飛ぶまで外の世界に達しなかった．18日にアメリカ海軍の飛行機が食料を投下し　20日に救援船が到着し必要ならば住民を引上げる準備をした．噴火と地震はおさまり　船はひとまず離れたが　後になって住民は近くのヌクアローファ島へ移すことが決定された．島外へ出た住民は1958年に再び島にもどった．

ニウアフォオウ火山の岩石は　かんらん石に乏しい　かんらん石普通輝石玄武岩である．化学組成は1867年と1929年のと2例知られており　いずれもSiO_2 50%　K_2Oが0.3%　Na_2Oが1.88と2.74%で　ノルムに石英がわずか産出される．

1983年9月29日に島民再定住25年を記念して　トンガ属領から切手が発行された．5sは火山の噴火　29sは溶岩流　32sは避難する住民　$1.50は島を脱出する島民を描いている．